

# 鉄軌道輸送の安全にかかわる情報(平成25年度)の訂正について

平成26年11月

平成26年7月30日に公表しました「鉄軌道輸送の安全にかかわる情報(平成25年度)」につきまして、運転事故の届出等により一部の数値に変更がございましたので以下のとおり訂正いたします。(赤字下線の部分が訂正箇所になります。)

## ●鉄軌道輸送の安全にかかわる情報(平成25年度)〔概要版〕

### 【P1】

#### 1. 運転事故

○平成25年度に発生した運転事故は、件数が790件で対前年度21件(2.6%)減、死者数が276人で同19人(6.4%)減でした。(表1参照)

○乗客の死亡事故は、ありませんでした。

表1：運転事故の件数及び死傷者数(平成25年度)

|                     | 件数<br>(対前年度) | 死亡者数<br>(対前年度) | 負傷者<br>(対前年度) |
|---------------------|--------------|----------------|---------------|
| 列車事故※1              | 17件 (△5件)    | 0人 (±0人)       | 99人 (+10人)    |
| 踏切事故※2              | 290件 (△5件)   | 93人 (△28人)     | 103人 (+4人)    |
| うち踏切障害に伴う<br>列車事故※3 | 2件 (+1件)     | 0人 (±0人)       | 8人 (△10人)     |
| 道路障害事故              | 55件 (△7件)    | 0人 (△2人)       | 17人 (△4人)     |
| 人身障害事故              | 421件 (△8件)   | 183人 (+11人)    | 243人 (△17人)   |
| うちホームでの<br>人身障害事故   | 221件 (△2件)   | 31人 (+7人)      | 192人 (△7人)    |
| 物損事故                | 9件 (+5件)     |                |               |
| 合計                  | 790件 (△21件)  | 276人 (△19人)    | 454人 (+3人)    |

※1 「列車事故」は、列車衝突事故(軌道における車両衝突事故を含む。)、列車脱線事故(軌道における車両脱線事故を含む。 )及び列車火災事故(軌道における車両火災事故を含む。)をいいます。

※2 「踏切事故」は、踏切障害に伴う列車事故と踏切障害事故の総称です。

※3 「踏切障害に伴う列車事故」の件数等は、踏切事故の内数であり、列車事故にも重複して計上されています。

合計の件数等は、この重複を除いたものです。

【P2】

図1：運転事故の種類別の件数及び死傷者数(平成25年度)

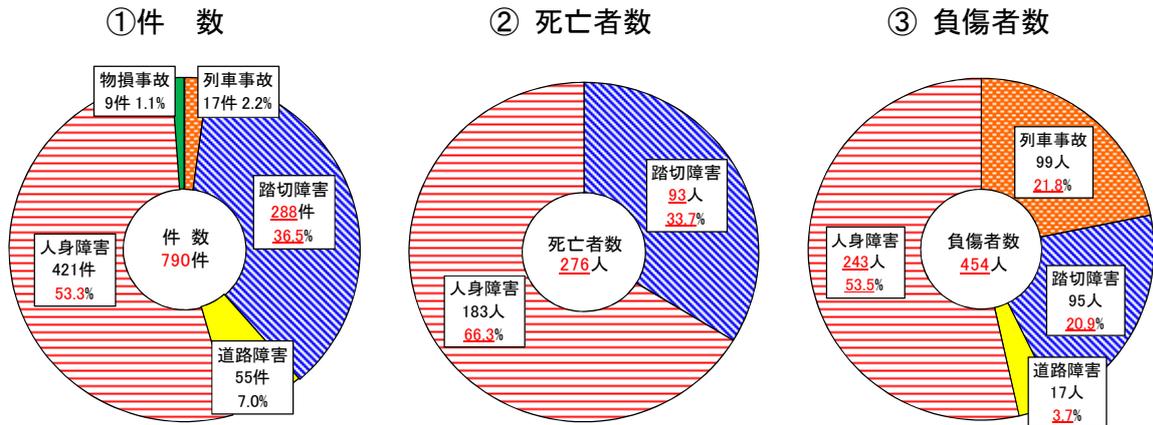
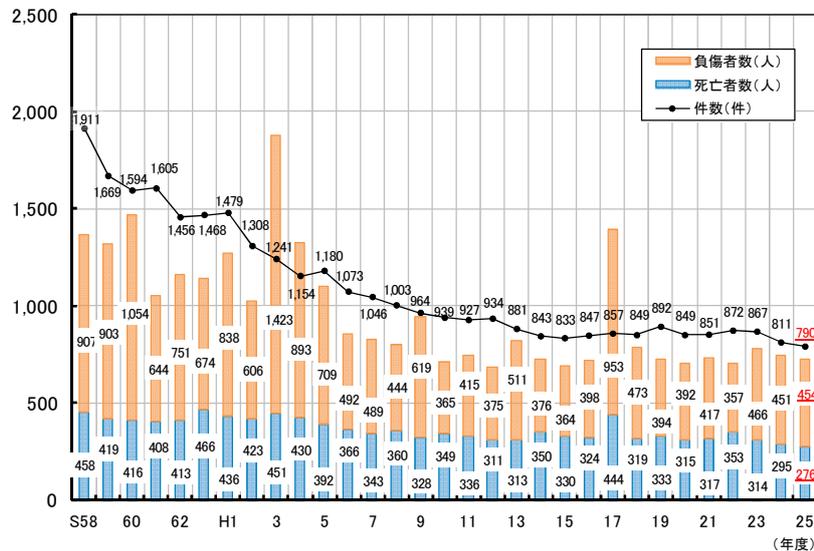


図2：運転事故の件数及び死傷者数の推移



【P3】

2. 踏切事故

- 平成25年度に発生した踏切事故は、件数が290件で対前年度5件(1.7%)減、死亡者数が93人で同28人(23.1%)減でした。(表1参照)
- 自動車等の直前横断による踏切障害事故は、件数が141件で対前年度2件(1.4%)減、死亡者が61人で同26人(29.9%)減となっています。
- 踏切遮断機の整備、踏切支障報知装置の整備等を推進する他、自動車が踏切道から出る前に遮断機が閉じたときにはそのまま進行し遮断機を自動車で押し上げて脱出できることの周知を図るなど、今後も事故防止を図っていきます。

図3:踏切事故の件数及び死傷者数の推移

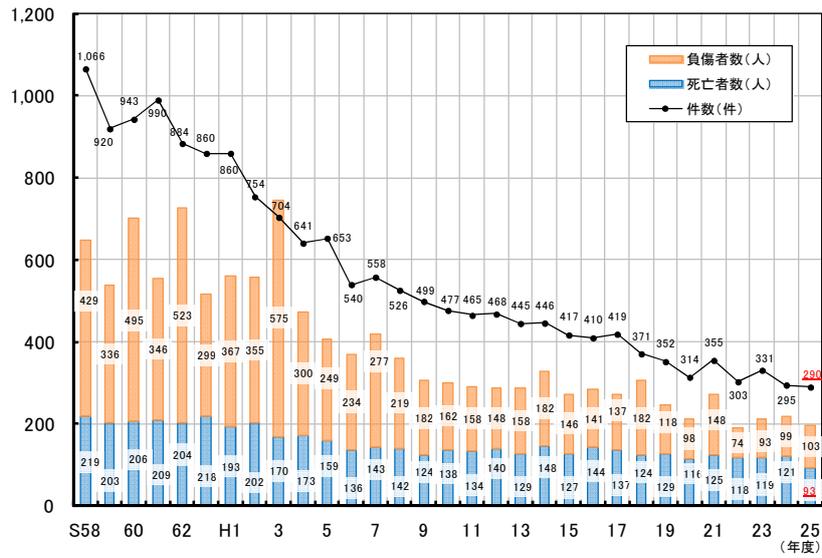
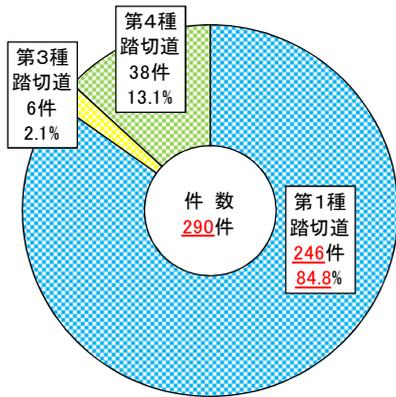
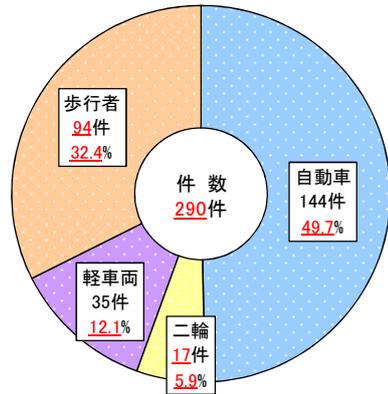


図4 踏切事故の発生状況(平成25年度)

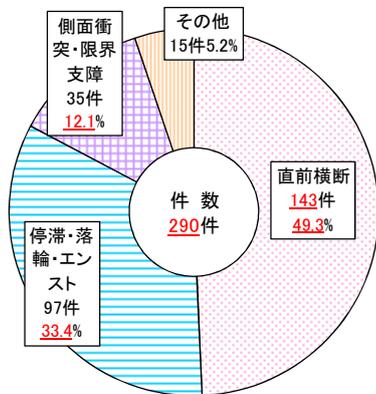
①踏切種別別



②衝撃物別



③原因別



【P5～6】

3. 人身障害事故

○平成25年度に発生した人身障害事故は、件数が**421**件で対前年度**8**件(**1.9%**)減、  
死亡者数が**183**人で同**11**人(**6.4%**)増でした。(表1参照)

○線路内立入り等での接触による人身障害事故は、件数が**189**件で対前年度**4**件  
(**2.1%**)減、死亡者が**152**人で同**7**人(**4.6%**)増となっています。

○「ホームから転落して接触」と「ホーム上で接触」を合わせた「ホームでの接触」による人  
身障害事故は、件数が**221**件で対前年度**2**件(**0.9%**)減、死亡者数が**31**人で同**7**人  
(**29.2%**)増でした。

○ホームの安全対策としてホームドア等の整備や、「プラットホーム事故ゼロ運動」等により、  
今後も事故防止を図っていきます。

図5: 人身障害事故の件数及び死傷者数の推移

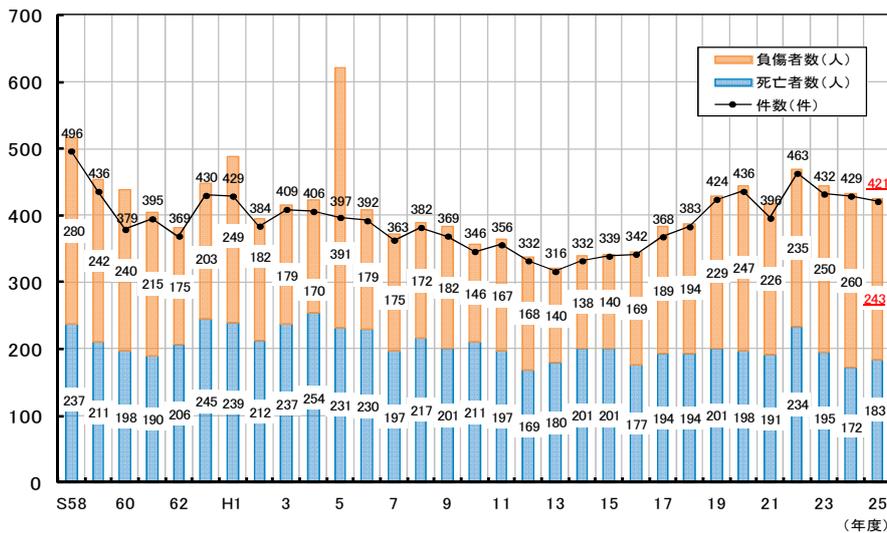
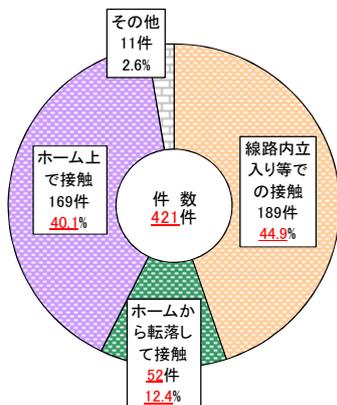
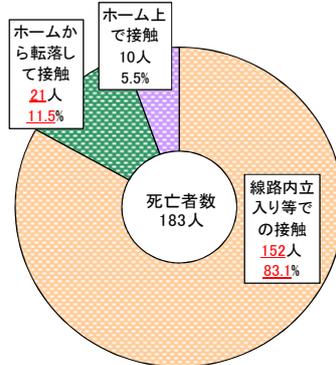


図6: 人身障害事故の原因等別の件数及び死傷者数(平成25年度)

① 件数



② 死亡者数



③ 負傷者数

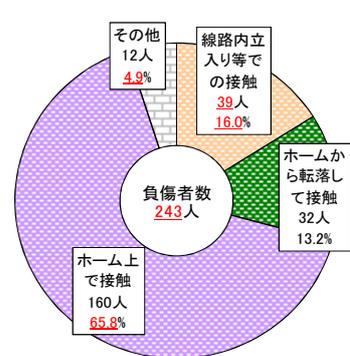
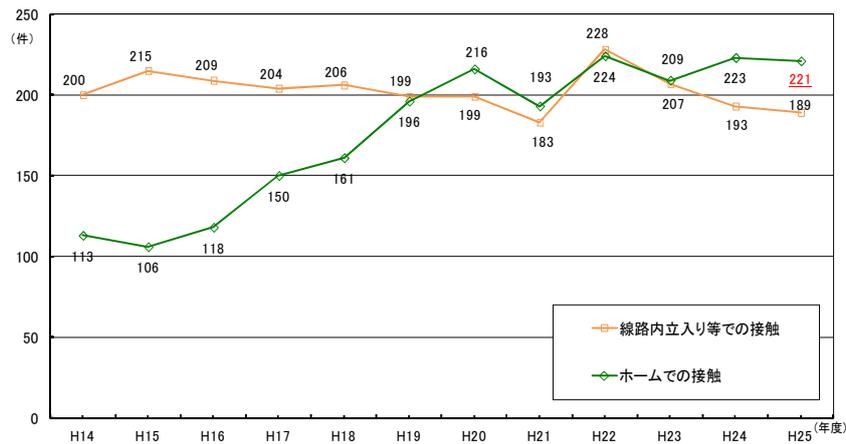


図7：ホーム等における人身障害事故件数の推移

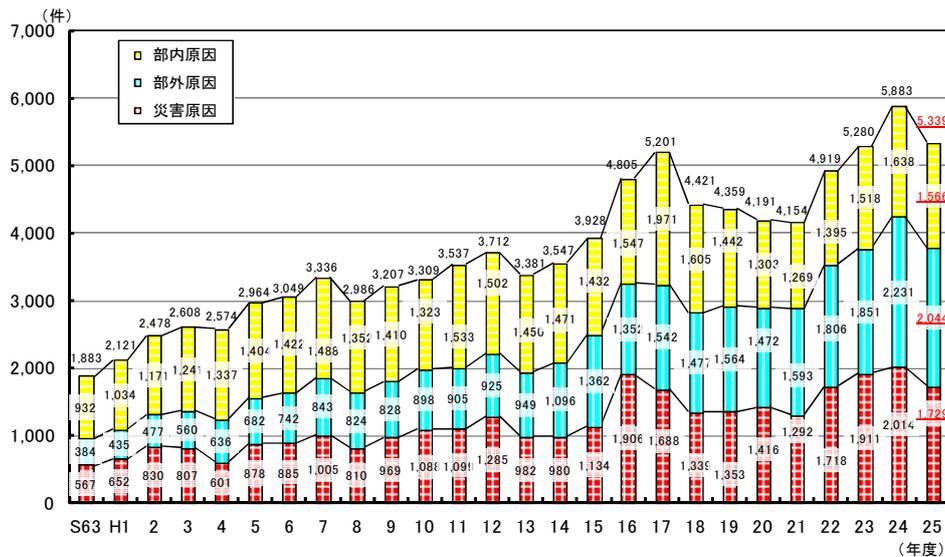


【P7】

4. 輸送障害

- 平成25年度に発生した輸送障害(列車の運休、旅客列車の30分以上の遅延等)は、5,339件で対前年度544件(9.2%)減でした。(図8参照)
- 鉄道係員、車両又は鉄道施設に起因する輸送障害(部内原因)は、1,566件(29.3%)で対前年度72件(4.4%)減でした。このうち、鉄道係員に起因するものが295件で同32件(12.2%)増、車両に起因するものが841件で同76件(8.3%)減、施設に起因するものが430件で同28件(6.1%)減でした。
- 線路内立入り等による輸送障害(部外原因)は、2,044件(38.3%)で対前年度187件(8.4%)減でした。このうち、自殺によるものは、605件で同26件(4.1%)減、動物によるものは465件で同49件(9.5%)減でした。
- 風水害、雪害、地震等の自然災害による輸送障害(自然災害)は、1,729件(32.4%)で対前年度286件(14.2%)減でした。なかでも、風水害によるものが858件で同230件(21.1%)減、雪害によるものが336件で同32件(10.5%)増、地震によるものが56件で同6件(9.7%)減でした。

図8：輸送障害件数の推移



●鉄軌道輸送の安全にかかわる情報(平成25年度)

【P2】

1 鉄軌道輸送の安全にかかわる国の取組み

(2) 交通安全基本計画

① 数値目標

○踏切事故件数の約1割削減(平成27年までに平成22年と比較して)

踏切事故は長期的には減少傾向にありますが、2. 3に記述するように踏切事故は平成25年度においても鉄軌道運転事故の36.7%を占め、また、改良すべき踏切道もなお残されています。このような現状を踏まえ、踏切事故件数を平成27年までに平成22年と比較して約1割削減することを目指します。

【P10】

2 運転事故に関する事項

2.1 鉄軌道における運転事故の発生状況等

(1) 運転事故の件数及び死傷者数の推移

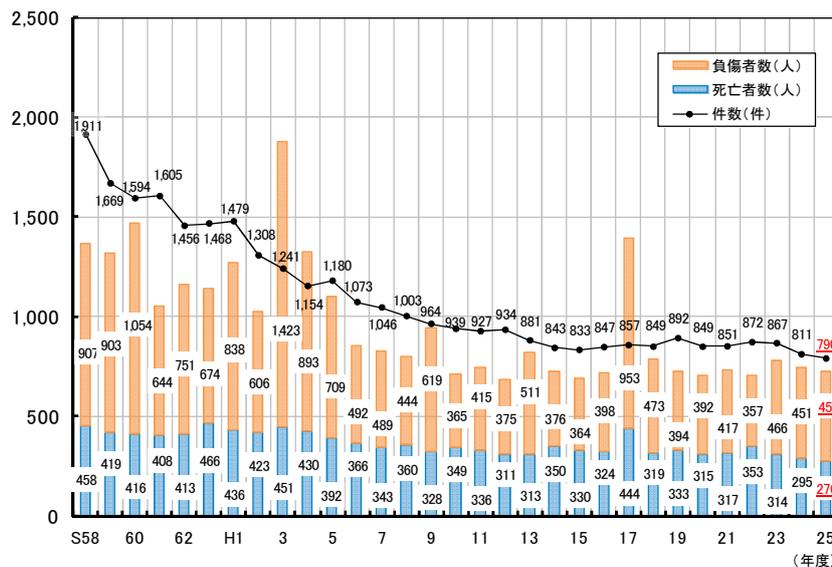
○鉄軌道における運転事故は、長期的には減少傾向にあり、平成13年度からは800件台で推移していましたが、平成25年度に発生した運転事故は、790件で対前年度21件(2.6%)減でした。

○平成25年度に発生した運転事故による死亡者数は、276人で対前年度19人(6.4%)減でした。運転事故による死亡者数は、近年ほぼ横ばいとなっています。

○また、運転事故による死傷者数は、730人で対前年度16人(2.1%)減でした。この中には、(4)に記載する主な事故の負傷者107人が含まれています。運転事故による死傷者数は、件数と同様に長期的には減少傾向にあります。JR西日本福知山線列車脱線事故があった平成17年度の死傷者数が1,397人であるなど、甚大な人的被害を生じた運転事故があった年度の死傷者数は多くなっています。

○なお、運輸安全委員会の調査対象となった運転事故は、平成25年度発生した運転事故790件のうち15件(1.9%)でした。

図5: 運転事故の件数及び死傷者数の推移

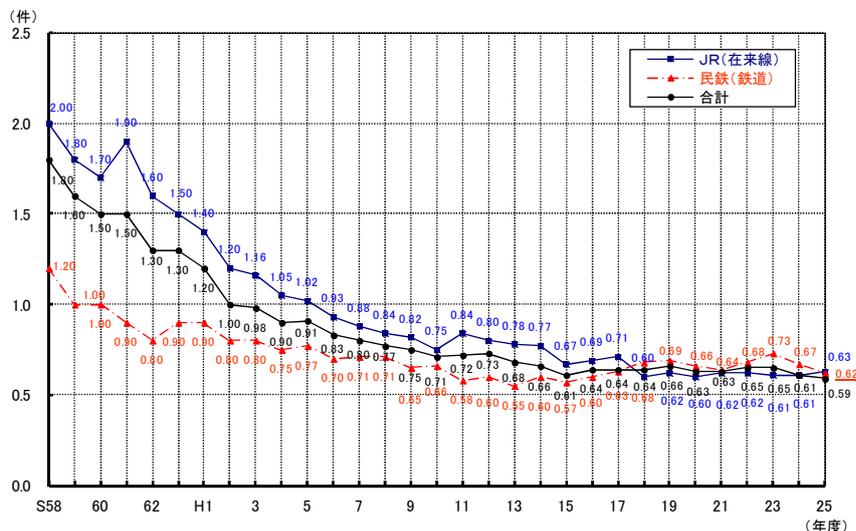


【P11~12】

(2) 列車走行百万キロ当たりの運転事故件数の推移

○列車走行百万キロ当たりの運転事故件数は、運転事故件数と同様に長期的には減少傾向にあります。平成13年度からは0.6件台で推移しており、平成25年度は0.59件でした。

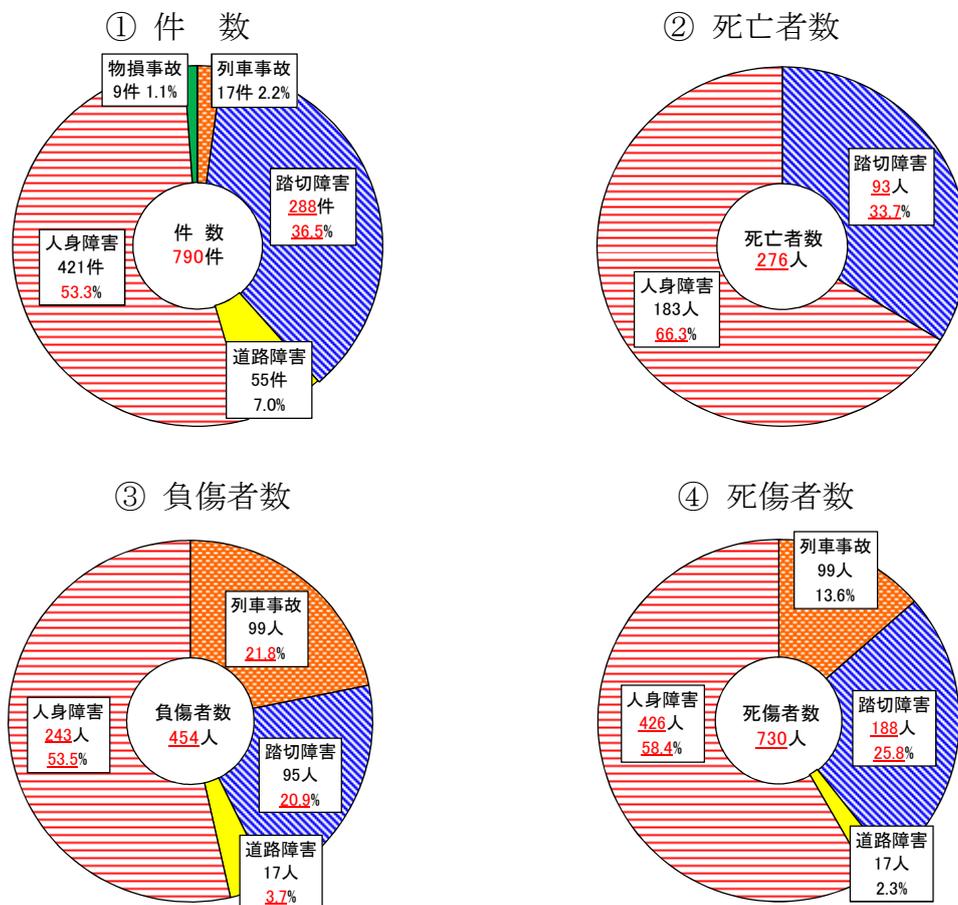
図6: 列車走行百万キロ当たりの運転事故件数の推移



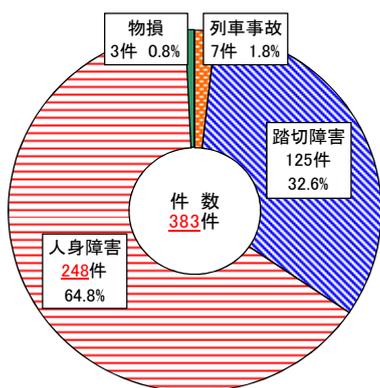
### (3) 運転事故の種類別の件数及び死傷者数

- 平成25年度に発生した運転事故の内訳は、線路内やホーム上での列車との接触などの人身障害事故が421件(53.5%)で対前年度8件(1.9%)減、踏切道における列車と自動車との衝突などの踏切障害事故が288件(36.5%)で同7件(2.4%)減、路面電車と自動車との道路上での接触などの道路障害事故が55件(7.0%)で対前年度7件(11.3%)減となっています。列車事故は17件(2.2%)で対前年度5件(22.7%)減でした。
- 身体障害者の方が死傷した運転事故は、4件(視覚障害者の方の事故が2件、肢体不自由の方の事故が2件)でした。
- 平成25年度に発生した運転事故による死亡者数は、(1)に記述したとおり276人であり、その内訳は、人身障害事故によるものが183人(66.3%)で対前年度11人(6.4%)増、踏切障害事故によるものが93人(33.7%)で同28人(23.1%)減となっています。
- 平成25年度に発生した踏切事故は、踏切障害事故288件のほかに、踏切障害に伴う列車脱線事故が2件あったので、290件(36.7%)でした。
- 平成25年度に新幹線において発生した運転事故は、ありませんでした。

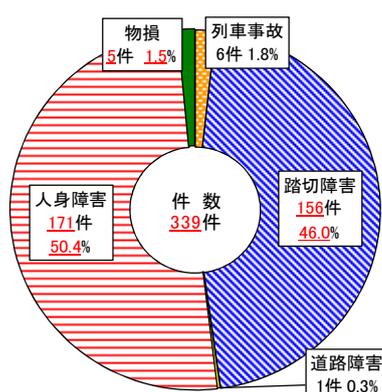
図7: 運転事故の種類別の件数及び死傷者数(平成25年度)



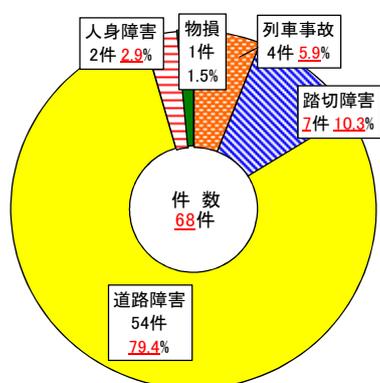
⑤ JR(在来線)の件数



⑥ 民鉄(鉄道)の件数



⑦ 民鉄(軌道)の件数



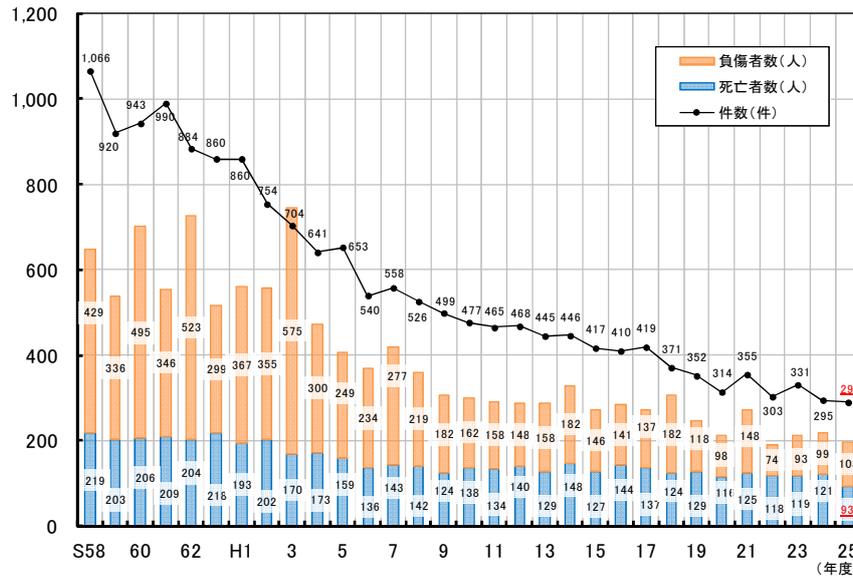
【P16】

2.3 踏切事故の発生状況

(1) 踏切事故の件数及び死傷者数の推移等

- 平成25年度に発生した踏切事故は、2.1(3)に記述したとおり運転事故全体の 36.7% に当たる 290 件で対前年度 5 件 (1.7%) 減、踏切事故による死亡者数は 93 人で同 28 人 (23.1%) 減、死傷者数は 196 人で同 24 人 (10.9%) 減でした。
- 身体障害者の方が死傷した踏切事故は、1件(肢体不自由の方が第1種踏切道で1件)でした。

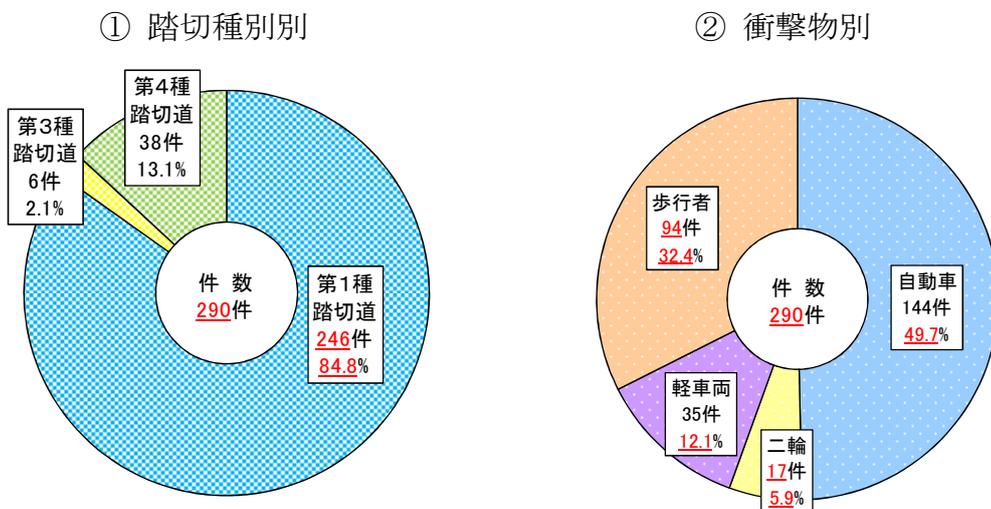
図10:踏切事故の件数及び死傷者数の推移



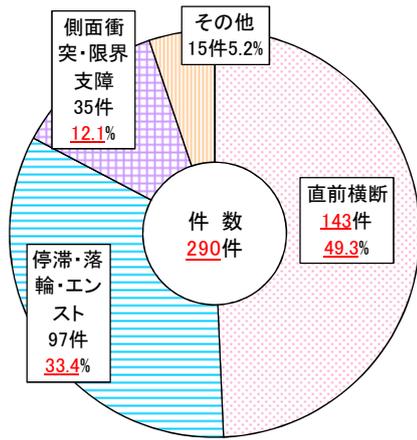
(2) 踏切種別別・衝撃物別及び原因別の踏切事故件数等

- 平成25年度に発生した踏切事故 **290** 件の踏切種別別の内訳は、第1種踏切道 **246** 件 (**84.8%**)、第3種踏切道6件 (2.1%)、第4種踏切道38件 (**13.1%**) となっています。
- 衝撃物別の内訳は、自動車144件 (**49.7%**)、二輪**17**件 (**5.9%**)、自転車などの軽車両35件 (**12.1%**)、歩行者**94**件 (**32.4%**) となっています。
- 原因別の内訳は、直前横断**143**件 (**49.3%**)、落輪・エンスト・停滞97件 (**33.4%**)、側面衝撃・限界支障35件 (**12.1%**)、その他15件 (5.2%) となっています。

図11:踏切種別別、衝撃物別及び原因別の踏切事故件数(平成25年度)



### ③ 原因別



【P18～20】

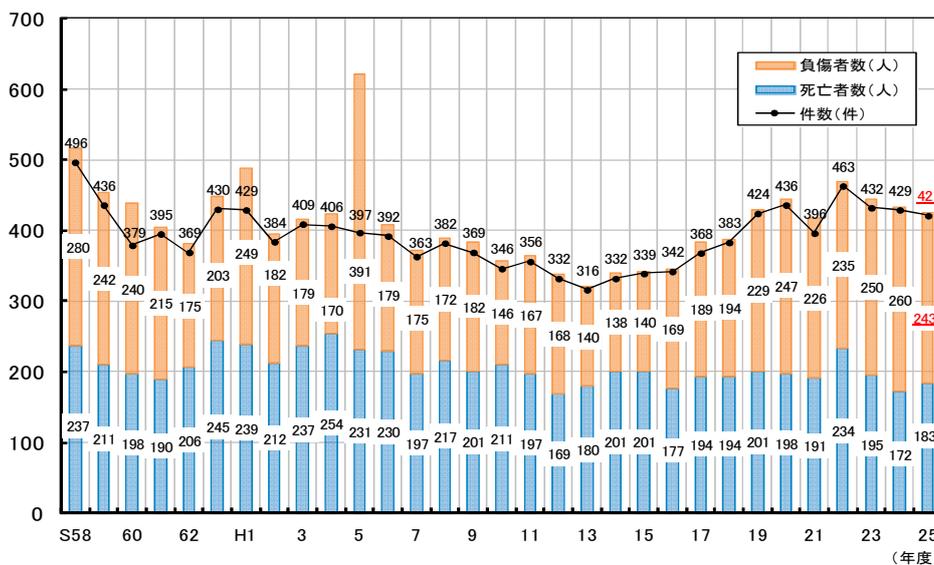
## 2.4 人身障害事故の発生状況

### (1) 人身障害事故の件数及び死傷者数の推移等

○平成25年度に発生した人身障害事故は、2.1(3)に記述したとおり運転事故全体の53.3%に当たる421件で対前年度8件(1.9%)減、人身障害事故による死亡者は183人で同11人(6.4%)増、死傷者は426人で同6人(1.4%)減でした。

○身体障害者の方が死傷した人身障害事故は3件(視覚障害者の方の事故が2件、肢体不自由の方の事故が1件)でした。

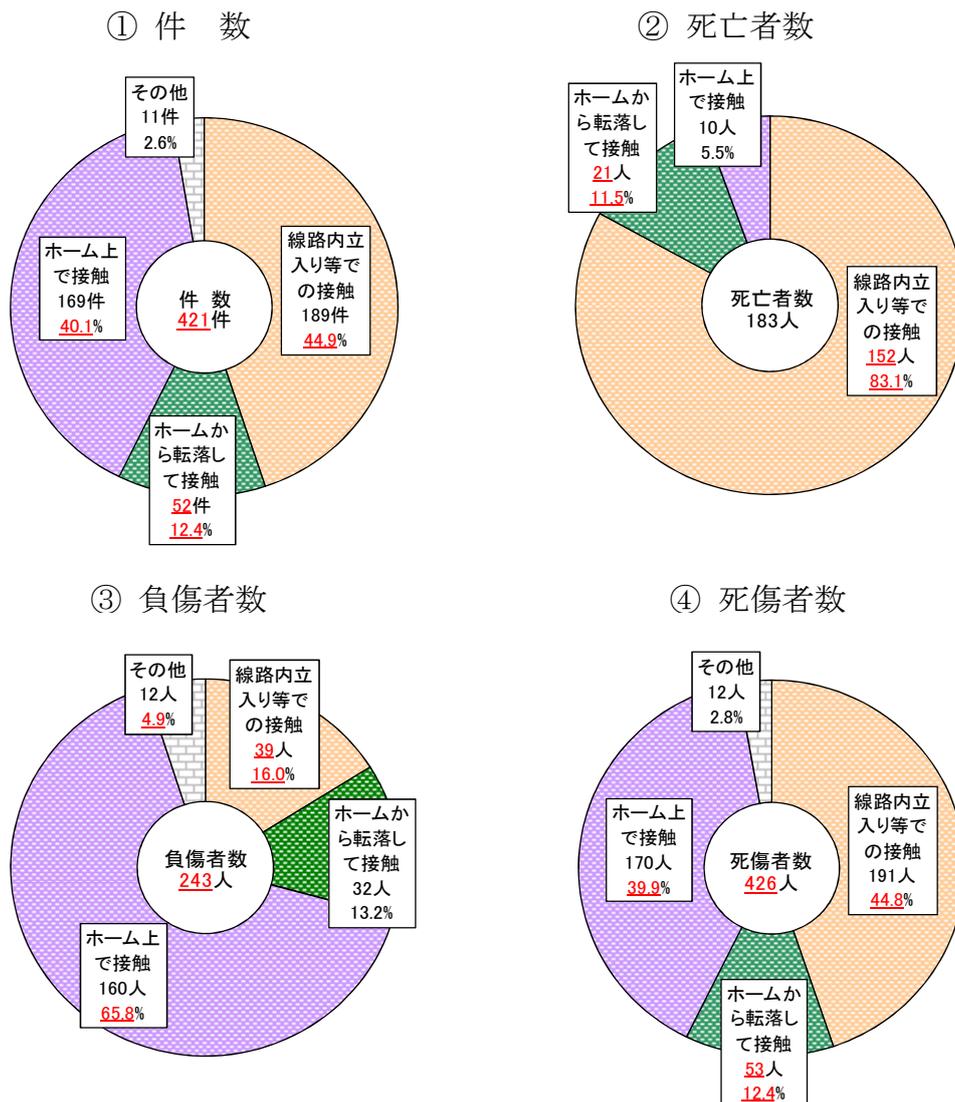
図12: 人身障害事故の件数及び死傷者数の推移



## (2) 原因別の人身障害事故件数等

- 人身障害事故の原因別の内訳は、公衆等が無断で線路内に立ち入る等して列車等と接触したもの(線路内立入り等での接触)が189件(45.0%)で対前年度4件(2.1%)減、これによる死者数は152人で同7人(4.6%)増でした。「線路内立入り等での接触」については、自殺かそうでないか判別できないまま人身障害事故として国へ報告されているものが比較的多く含んでいると見られます。
- 旅客等がプラットフォームから転落したことにより列車等と接触したもの(ホームから転落して接触)は52件(12.4%)で対前年度4件(8.3%)増、これによる死者数は21人で同5人(31.3%)増でした。
- プラットフォーム上で列車等と接触したもの(ホーム上で接触)は169件(40.2%)で対前年度6件(3.4%)減、これによる死者数は10人で同2人(25.0%)増でした。
- 乗降口の扉に手荷物等を挟んだまま列車が出発して旅客が負傷したものなど鉄道係員の取扱い等によるものは11件でした。

図13:原因別の人身障害事故の件数及び死傷者数(平成25年度)



○「ホームから転落して接触」と「ホーム上で接触」を合わせた「ホームでの接触」は221件で人身障害事故件数の52.5%を占めています。

図14:原因別の人身障害事故件数の推移

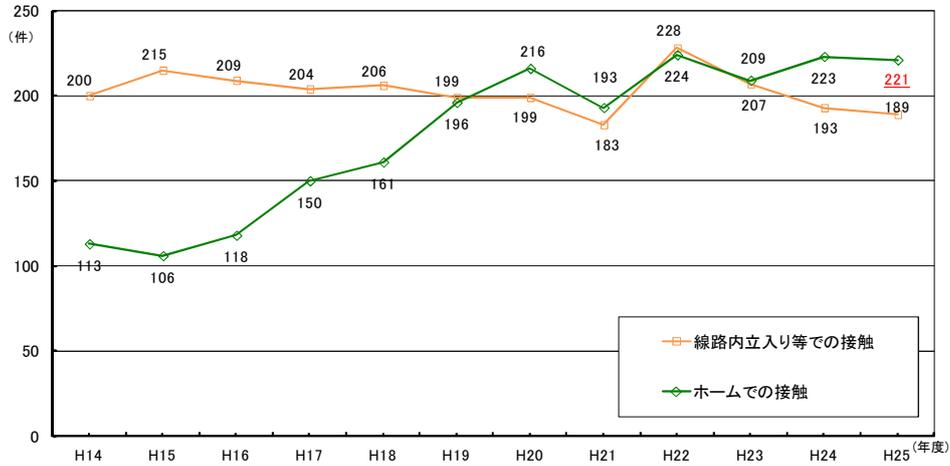
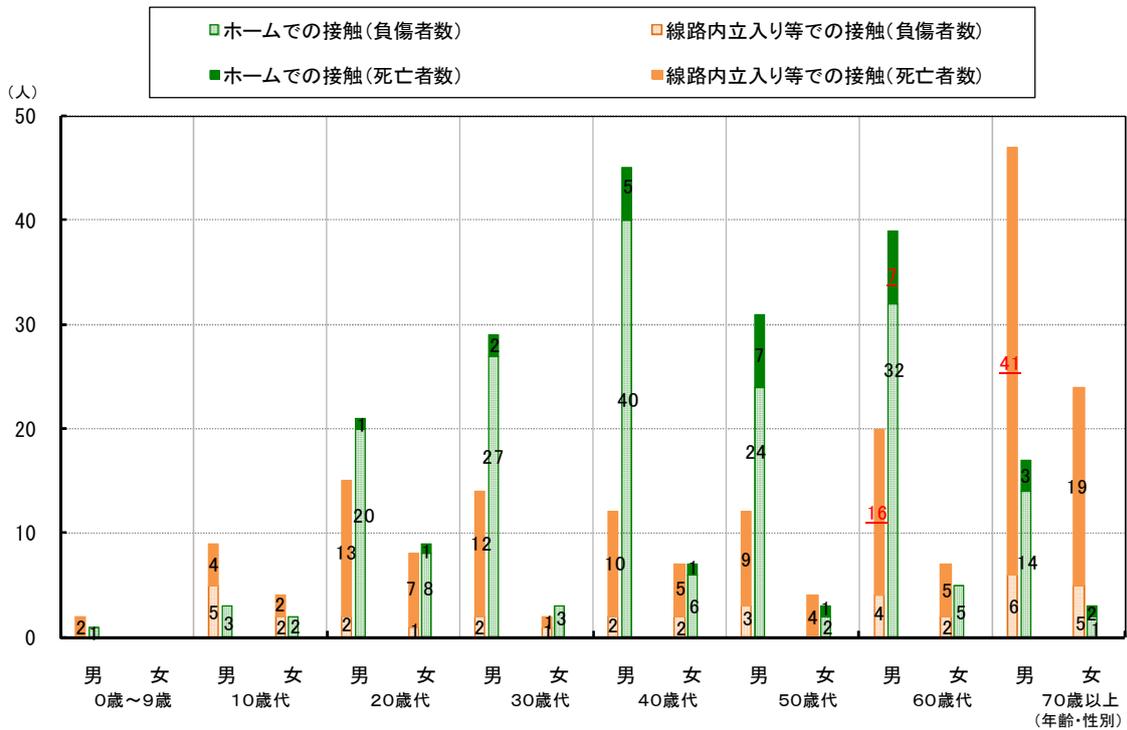


図15:人身障害事故による死傷者数の年齢別人数



※年齢の把握ができなかった場合は、除いています。

【P21】

2.5 事業者区別の運転事故件数

○事業者区別の運転事故件数は、表4のとおりです。

表4:事業者区別の運転事故件数(平成25年度)

| 事故種類      | (件)  |      |      |      |      |      |    |     |
|-----------|------|------|------|------|------|------|----|-----|
|           | 列車衝突 | 列車脱線 | 列車火災 | 踏切障害 | 道路障害 | 人身障害 | 物損 | 合計  |
| 事業者区分     |      |      |      |      |      |      |    |     |
| JR(在来線)   |      | 7    |      | 125  |      | 248  | 3  | 383 |
| JR(新幹線)   |      |      |      |      |      |      |    | 0   |
| 民鉄等       | 1    | 5    |      | 156  | 1    | 171  | 5  | 339 |
| 大手民鉄      | 1    |      |      | 101  |      | 106  | 1  | 209 |
| 公営地下鉄等    |      |      |      |      |      | 42   | 3  | 45  |
| 新交通・モノレール |      |      |      |      |      | 1    |    | 1   |
| 中小民鉄      |      | 5    |      | 55   | 1    | 22   | 1  | 84  |
| 路面電車      | 1    | 3    |      | 7    | 54   | 2    | 1  | 68  |
| 合計        | 2    | 15   |      | 288  | 55   | 421  | 9  | 790 |
| 地域鉄道【再掲】  |      | 8    |      | 47   | 43   | 13   | 2  | 113 |
| 地域鉄道(鉄道)  |      | 5    |      | 45   | 1    | 12   | 1  | 64  |
| 地域鉄道(軌道)  |      | 3    |      | 2    | 42   | 1    | 1  | 49  |

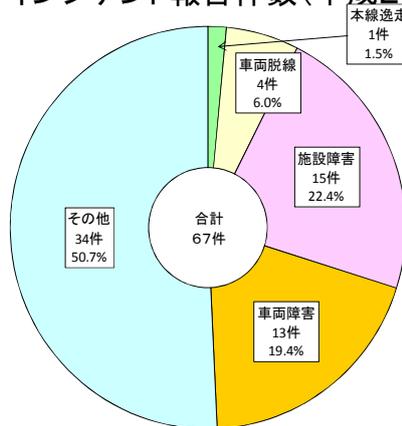
- ※1 「大手民鉄」は、東京地下鉄(株)を除く15社です。
- ※2 「公営地下鉄等」は、東京地下鉄(株)を含みます。
- ※3 「中小民鉄」は、準大手鉄道事業者を含みます。
- ※4 「地域鉄道」は、脚注9をご覧ください。

【P22】

3 インシデントに関する事項

3.1 インシデント報告件数

図16:インシデント報告件数(平成25年度)



|                   | (件)   |      |      |      |      |      |      |      |        |      |      |
|-------------------|-------|------|------|------|------|------|------|------|--------|------|------|
|                   | 閉そく違反 | 信号違反 | 信号冒進 | 本線逸走 | 工事違反 | 車両脱線 | 施設障害 | 車両障害 | 危険物漏えい | その他  | 合計   |
| 25年度              | 0     | 0    | 0    | 1    | 0    | 4    | 15   | 13   | 0      | 34   | 67   |
| 参考 24年度           | 0     | 0    | 1    | 0    | 2    | 6    | 10   | 18   | 0      | 19   | 56   |
| 5年平均<br>(21~25年度) | 0.8   | 0.8  | 3.4  | 0.5  | 1.8  | 5.7  | 13.5 | 17.3 | 0.2    | 28.7 | 71.8 |

※「その他」には、鉄道係員による取扱い誤りなどにより発生した事象が含まれています。

【P23～26】

4.1 輸送障害の発生状況

(1) 輸送障害件数の推移等

○平成25年度に発生した輸送障害(列車の運休、旅客列車の30分以上の遅延等)は、5,339件で対前年度544件(9.2%)減でした。

○鉄道係員、車両又は鉄道施設に起因する輸送障害(部内原因)は、1,566件(29.3%)で対前年度72件(4.4%)減でした。このうち、鉄道係員に起因するものが295件で同32件(12.2%)増、車両に起因するものが841件で同76件(8.3%)減、施設に起因するものが430件で同28件(6.1%)減でした。

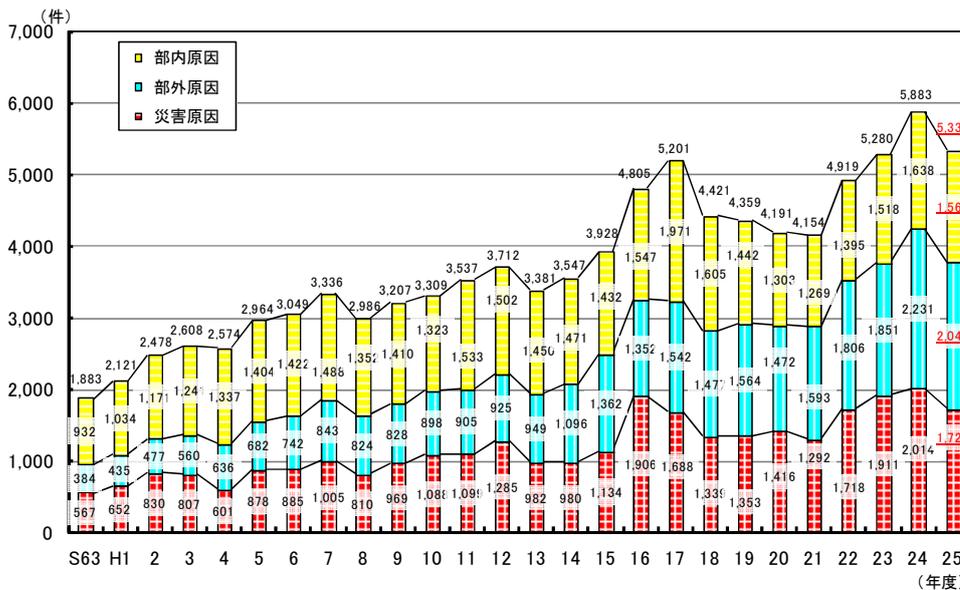
○線路内立入り等による輸送障害(部外原因)は、2,044件(38.3%)で対前年度187件(8.4%)減でした。このうち、自殺によるものは、605件で同26件(4.1%)減、動物によるものは465件で同49件(9.5%)減でした。

○風水害、雪害、地震等の自然災害による輸送障害(自然災害)は、1,729件(32.4%)で対前年度286件(14.2%)減でした。なかでも、風水害によるものが858件で同230件(21.1%)減、雪害によるものが336件で同32件(10.5%)増、地震によるものが56件で同6件(9.7%)減でした。

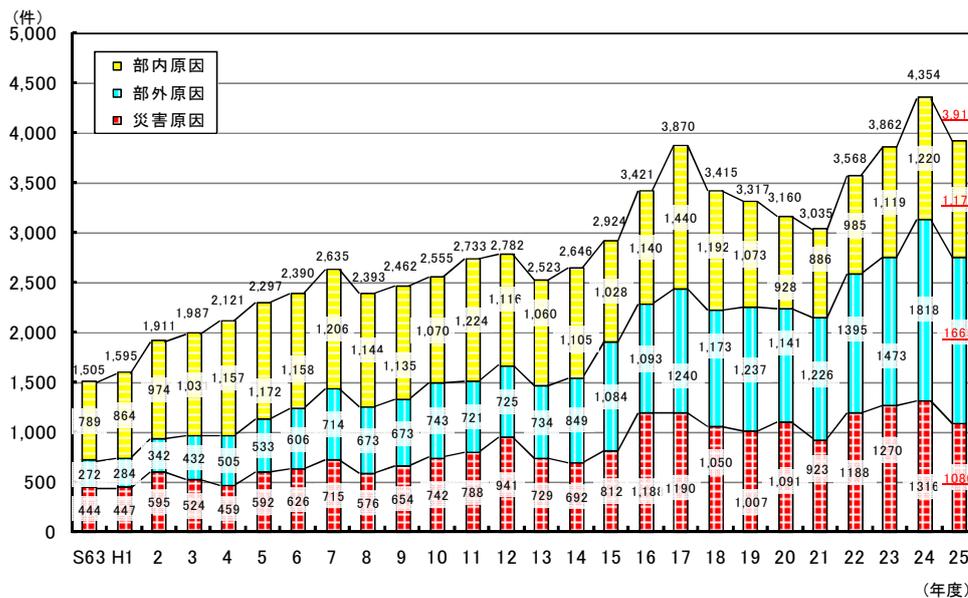
○なお、運転事故に伴う列車の運休、旅客列車の30分以上の遅延等があっても、運転事故との重複計上を避けるため、輸送障害として計上していません。

図18:輸送障害件数の推移

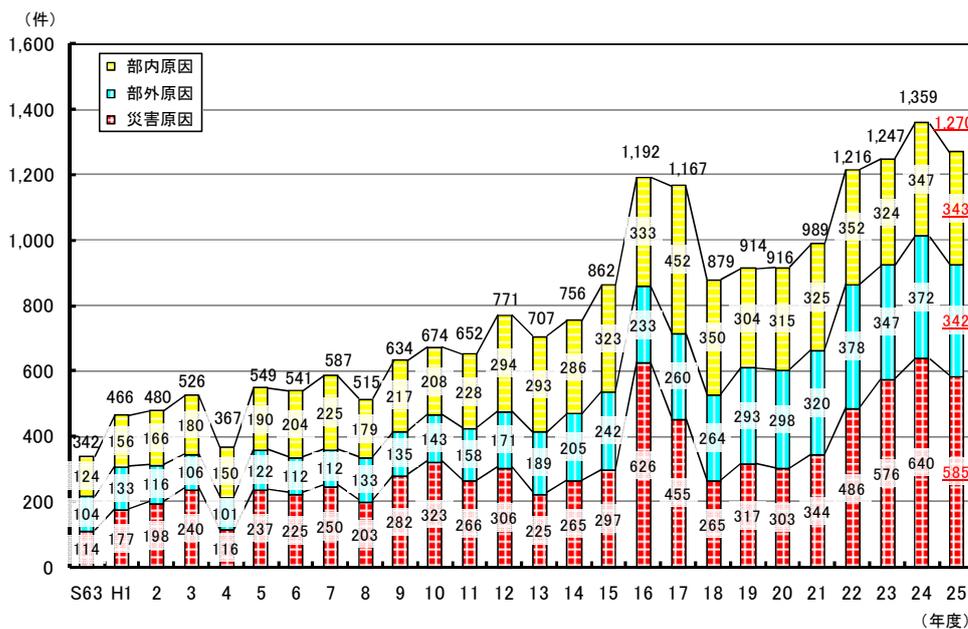
① JR(在来線+新幹線)と民鉄(鉄道+軌道)の合計



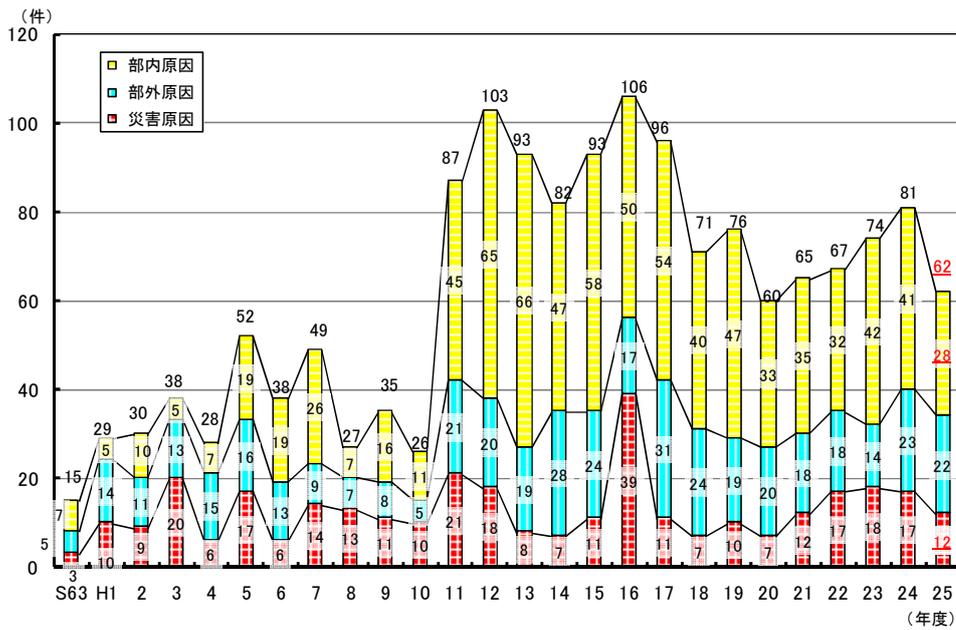
② JR(在来線)



④ 民鉄(鉄道)



⑤ 民鉄(軌道)



【P27】

4. 2 事業者区別の輸送障害件数

○平成25年度における事業者区別の輸送障害件数は、表5のとおりです。

表5:事業者区別の輸送障害件数(平成25年度)

| 事業者区分     | 部内原因 |     |      |       | 部外原因  | 災害原因  | 合計    |
|-----------|------|-----|------|-------|-------|-------|-------|
|           | 鉄道係員 | 車両  | 鉄道施設 | 小計    |       |       |       |
| JR(在来線)   | 261  | 630 | 280  | 1,171 | 1,665 | 1,080 | 3,916 |
| JR(新幹線)   | 4    | 12  | 8    | 24    | 15    | 52    | 91    |
| 民鉄等       | 27   | 182 | 136  | 345   | 342   | 586   | 1,273 |
| 大手民鉄      | 9    | 23  | 25   | 57    | 240   | 101   | 398   |
| 公営地下鉄等    | 2    | 9   | 13   | 24    | 30    | 12    | 66    |
| 新交通・モノレール | 1    | 11  | 4    | 16    | 5     | 36    | 57    |
| 中小民鉄      | 15   | 139 | 94   | 248   | 67    | 437   | 752   |
| 路面電車      | 3    | 17  | 6    | 26    | 22    | 11    | 59    |
| 合計        | 295  | 841 | 430  | 1,566 | 2,044 | 1,729 | 5,339 |

※1 「大手民鉄」は、東京地下鉄(株)を除く15社です。

※2 「公営地下鉄等」は、東京地下鉄(株)を含みます。

※3 「中小民鉄」は、準大手鉄道事業者を含みます。

【P37~38】

7 輸送の安全にかかわる施設等に関する事項

7. 2 踏切保安設備の整備状況

(1) 踏切道数の推移

○平成25年度において、2. 1(3)に記述したとおり踏切事故は運転事故の36. 7%を、ま

た踏切事故による死亡者は運転事故による死亡者の33.7%をそれぞれ占めており、踏切事故防止は鉄道の安全確保上、極めて重要なものとなっています。

○踏切事故件数は、立体交差化や統廃合による踏切道数の減少や第1種踏切道への改良等の踏切保安設備の整備等により、年々減少しています。

○これまで踏切保安設備の整備が着実に進められてきた結果、現在では踏切道の88%が第1種踏切道となっています。また、踏切遮断機等の設備のない第3種踏切道及び第4種踏切道は、年々減少していますが、平成25年度末においてそれぞれ794箇所及び2,981箇所残っており、2.3(2)に記述したとおり同年度に踏切事故がそれぞれ6件(踏切事故全290件の2.1%)及び38件(同13.1%)発生しています。

図17:踏切道数と踏切事故件数の推移

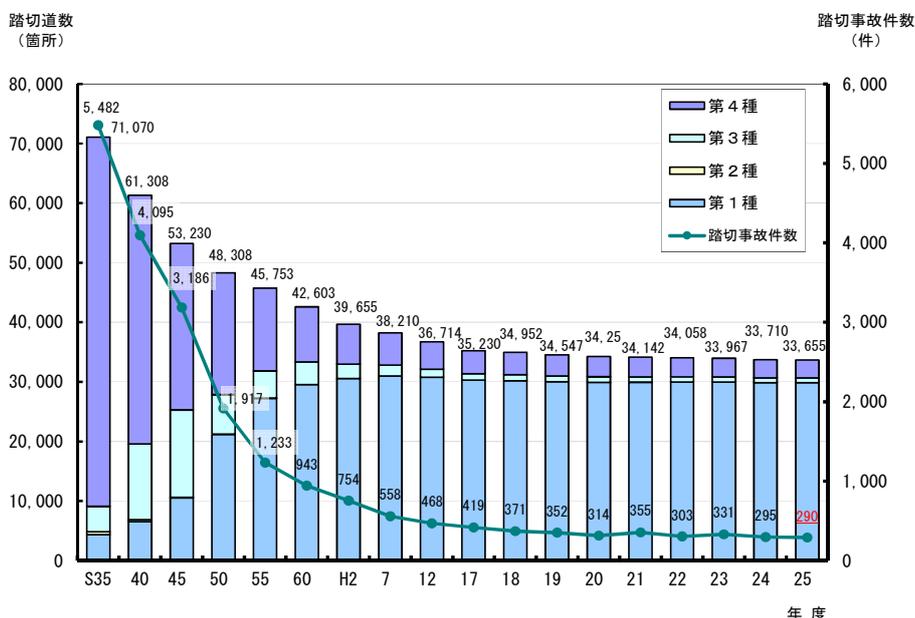


表12:踏切種別別の踏切道数の推移

(箇所)

| 年 度      | 第 1 種        | 第 3 種    | 第 4 種       | 合 計           |
|----------|--------------|----------|-------------|---------------|
| 平成 21 年度 | 29,930 (88%) | 907 (3%) | 3,305 (10%) | 34,142        |
| 平成 22 年度 | 29,967 (88%) | 861 (3%) | 3,230 (9%)  | 34,058        |
| 平成 23 年度 | 29,988 (88%) | 841 (2%) | 3,138 (9%)  | 33,967        |
| 平成 24 年度 | 29,860 (88%) | 816 (2%) | 3,034 (9%)  | 33,710        |
| 平成 25 年度 | 29,880 (88%) | 794 (2%) | 2,981 (9%)  | <u>33,655</u> |

【P39】

(3) 事業者区別の踏切道数等

○事業者区別の踏切道数及び踏切支障報知装置設置踏切道数は、表14のとおりで

す。

表14: 事業者区分別・踏切種別別の踏切道数(平成26年3月末現在) (箇所)

| 事業者区分   | 第1種    | 第3種 | 第4種   | 合計     | 踏切支障<br>報知装置 |
|---------|--------|-----|-------|--------|--------------|
| JR(在来線) | 18,738 | 531 | 1,669 | 20,938 | 14,743       |
| 民鉄等     | 10,748 | 242 | 1,274 | 12,264 | 7,120        |
| 大手民鉄    | 5,607  | 51  | 14    | 5,672  | 5,093        |
| 公営地下鉄等  | 1      | 0   | 0     | 1      | 1            |
| 中小民鉄    | 5,140  | 191 | 1,260 | 6,591  | 2,026        |
| 路面電車    | 394    | 21  | 38    | 453    | 119          |

●参考資料

【P1】

(1) 踏切事故の状況

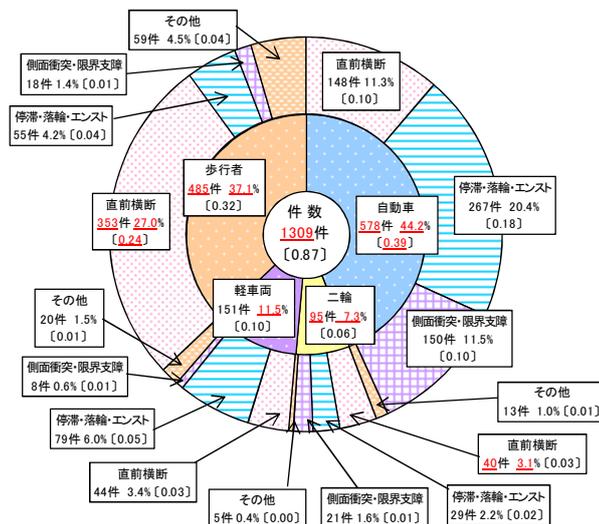
○過去5年間(平成21～25年度)の踏切道100箇所当たりの踏切事故件数は、第4種踏切道が1.38件、第3種踏切道が1.14であり、これらと比較すると一般的には道路の交通量若しくは列車の本数が多く、又は列車の速度が高い傾向にある第1種踏切道の0.87件より高くなっています。また、自動車の直前横断による踏切事故は、第4種踏切道が0.73件、第3種踏切道が0.66件であり、第1種踏切道の0.10件よりも高くなっています。

○踏切事故については、高齢者が関係するものが多く、平成22～25年度に発生した事故のうち、衝撃物が自動車の件数は567件であり、このうち、60歳以上の件数は268件(47.3%)を占めています。また、衝撃物が歩行者の件数は383件であり、このうち60歳以上の件数は、198件(51.7%)を占めています。

【P2】

踏切種別別の衝撃物別・原因別の踏切事故件数等(平成21～25年度までの合計)

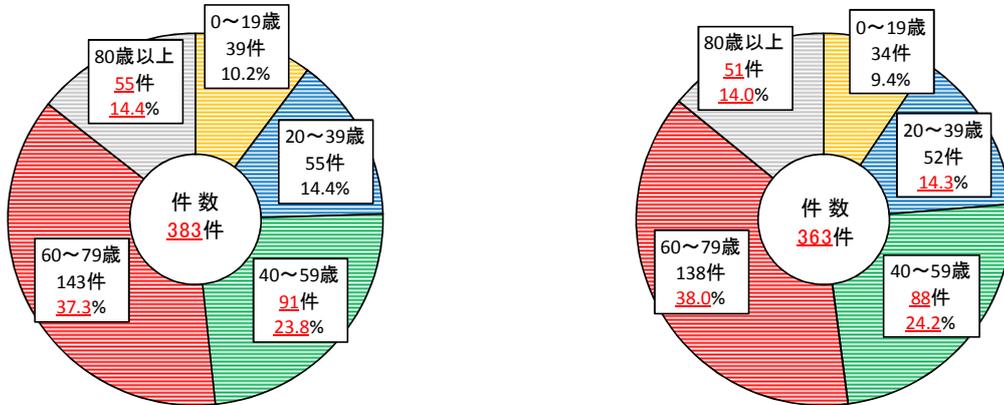
① 第1種踏切道(踏切道数 29,880)



【P3】

年齢別の踏切事故件数等(平成22～25年度までの合計)

- ② 関係者年齢別の踏切事故件数(歩行者)      ④ 第1種踏切道における歩行者の年齢別件数

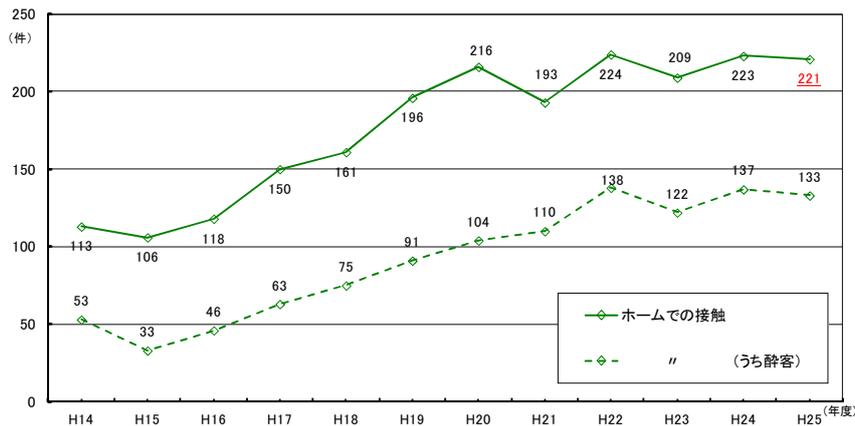


【P4】

(2)ホームにおける人身障害事故の状況

- 平成25年度に発生した人身障害事故は421件で、運転事故全体の53.5%を占めており、このうち「ホームから転落して接触」と「ホーム上で接触」を含めた「ホームでの接触」による人身障害事故は221件となっています。
- 「ホームでの接触」のうち、酔客に係るものは133件となっています。
- また、ホームから転落して接触した人身障害事故は、非常押しボタンの整備等の対策が進められているものの、減少までには至っていません。

ホームにおける人身障害事故件数の推移



【P5】

ホームの安全対策とホームから転落して接触した人身障害事故件数の推移

